

研究部会報告



● DP ●

- 日時：1月29日(火) 18:00~20:00
場所：日科技連 出席者：6名
テーマ・講師：ベイジアンと非ベイジアンの在庫モデルの最適発注水準の比較, Management Science, Vol. 30, No. 8(1984)の文献紹介 丸山茂子(電通大)
- 日時：2月9日(土) 14:00~16:00
場所：蔵前工業会館
出席者：5名
講師・テーマ：DPの発展方向について, 杉山博(大阪工科大学) 1)ニュートン・ラフソン法 2) $f=T(f)$ から $f(p)=\max_q T(f, q)$

●交通問題●

- 第11回
日時：昭和60年2月20日(水) 18:00~20:00
場所：東洋経済新報社ビル(日本橋) 出席者8名
テーマ：「自由討論」
昭和59年度の活動報告を行ない、それをふまえて次年度の活動方針を討議し、調査対象の希望を会員から聞いた。その主なものは、次のとおりである。「私鉄」「新幹線新車両」「国内外の航空貨物」「都内の各区における交通事故率」「国鉄貨物衰退の原因」「都庁移転」「HSSと地方自治体」「新交通システム総合比較」そして「交通と防災」などの調査・研究であり、この希望に沿って今後、活動を進める。

●信頼性・保安全性研究部会●

- 第20回
日時：3月9日(土) 14:30~17:00
場所：東京工業大学中棟1号館 出席者：7名
テーマ：1次元放電破壊路の進展モデルによるワイブル分布のシミュレーション
講師：安久正紘(茨城大学)
1次元放電破壊路において、放電の進行する確率が枝先の電界の η 乗($0 < \eta \leq 2$)に比例するというモデルにおいて放電路の長さが一定値に達するまでの時間分布をシミュレーションで求め、これらがワイブル分布にあては

まることが報告された。ここで定式化されたモデルは一般材料のき裂進展等にも適用できそうであり、理論面実践面より活発な議論が展開された。この後、宮村、宮川の両氏より文献紹介がなされた。

●待ち行列●

- 第10回
日時：1985年3月16日(土) 14:00~17:00
場所：東京工業大学(情報科学科会議室)
出席者：13名
テーマと講師：
●Q10-1 分枝ポアソン待ち行列の近似式(宮沢政清・東京理科大)一到着が分枝ポアソン過程(親がポアソン到着、子がその後定期間隔で k 個到着)、サービス時間が一般分布にしたがう、シングルサーバモデルの近似解析を行なった。シミュレーションにより精度を確認した。
●Q10-2 CPUのスケジューリング(亀田壽夫・電通大)一計算機における多重プログラミングの基本モデルである、有限呼源モデル、セントラルサーバモデルのスケジューリング方式に対する考察を行なった。特に、後者については広範なシミュレーションを行なった。

4月号講座正誤表(校正ミスをおわびします)

頁	誤	正
271	左↑2 $(c' - c_p)^T (b' - z) \geq 0 \Rightarrow (c' - c_p)^T (b' - z) = 0$	
272	右[定理3]の中...上で $a^T x$ を \dots 上で $e^T x$ を...	ここには δ 正定数で \Rightarrow ここに δ は正定数で
272	右 式(3.10)の右辺	$\frac{2(1-\beta)^2}{x^2} \Rightarrow \frac{x^2}{2(1-\beta)^2}$
272	右↑9 $ x - a_0 ^2$	$\Rightarrow x - a_0 ^2$
273	左 式(3.13)の中	$ \sum_j \ln \frac{x_j}{a_{0j}} \leq \frac{\beta^2}{2(1-\beta)^2} \Rightarrow \sum_j \ln \frac{x_j}{a_{0j}} \leq \frac{\beta^2}{2(1-\beta)^2}$
275	右↓13 Karmrkar	\Rightarrow Karmarkar
274	右↓6 ただし $e^T = [1, \dots, 1]$	\Rightarrow ただし $e^T = [1, \dots, 1]$